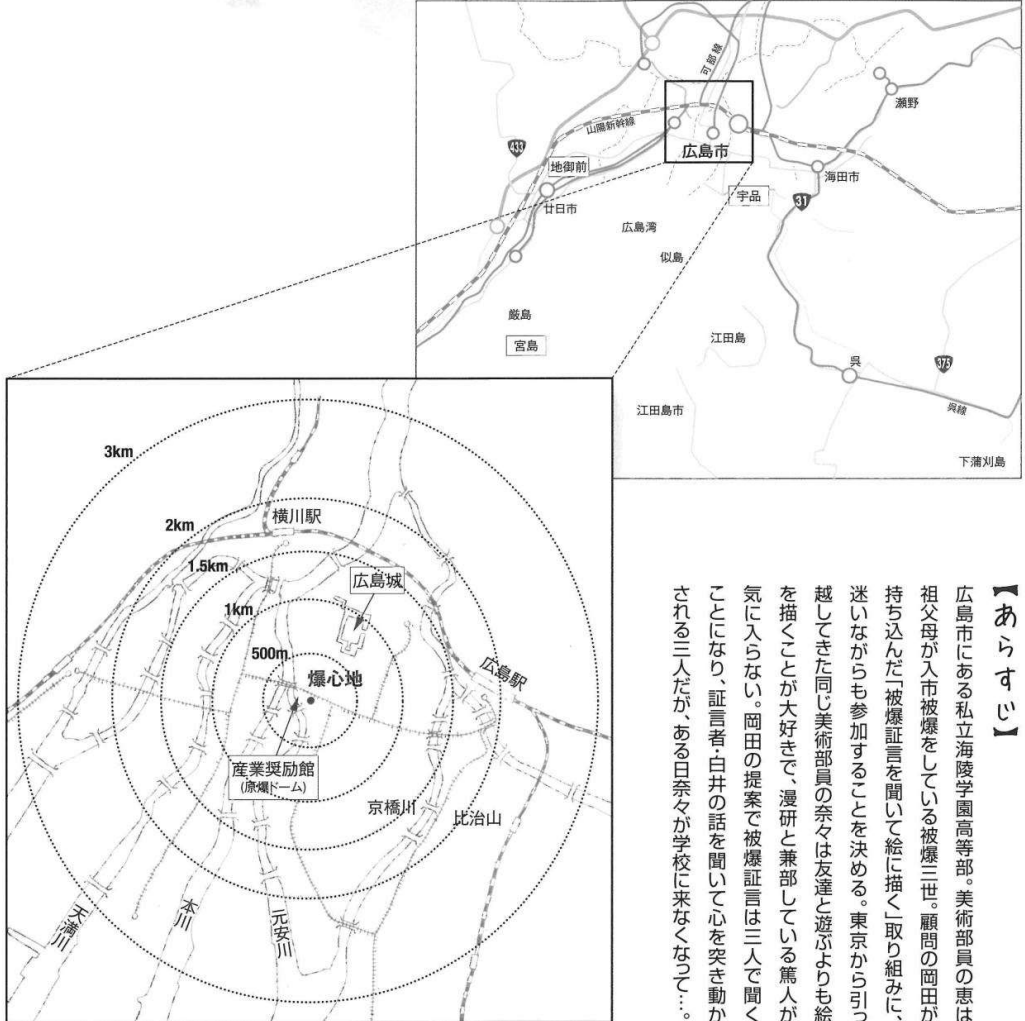


初演から2年。再演を望む多くの声に応え、埼玉公演が実現します。



【あらすじ】
広島市にある私立海陵学園高等部。美術部員の恵は祖父母が入市被爆をしている被爆三世。顧問の岡田が持ち込んだ「被爆証言を聞いて絵に描く」取り組みに、迷いながらも参加することを決める。東京から引越してきた同じ美術部員の奈々は友達と遊ぶよりも絵を描くことが大好きで、漫研と兼部している篤人が気に入らない。岡田の提案で被爆証言は三人で聞くことになり、証言者・白井の話聞いて心突き動かされる三人だが、ある日奈々が学校に来なくなってしまう。

登場人物

浅野恵 16歳 高校生
絵が好き。亡くなった祖父から被爆体験を聞かなかったことを後悔している。美術部員。

工藤奈々 16歳 高校生
小さいころから絵が好きで、友人と遊ぶよりも絵を描いていた。東京から父の転勤で広島に来た。美術部員。

飯島篤人 16歳 高校生
中学の美術部ではマンガばかり描いていた。美術部員。指導を請う自己中な絵、技術も未熟。父は自衛官。

白井勝利 85歳
広島の被爆者。中学三年で、父親を探して入市被爆。戦後は砕石フロント会社の役員。前年から証言を始める。

浅野綾子 85歳
恵の祖母。学徒動員で地御前の兵器工場に通勤する途上で原爆が落ち、その後入市被爆。これまでに家族にも被爆体験を語った事はない。

岡田路子 40歳 美術教師・美術部顧問。
今年初めて原爆の絵に取り組み。広島出身で叔母が被爆者。

秋田県 青年劇場

福山啓子 作・演出

あの夏の絵

【美】 術 石井強司
【照】 明 河崎浩
【選】 曲 堀沢広幸
【音】 響 効果 石井隆
【衣】 装 宮岡増枝
【演】 出 助 手 清原達之
【舞】 台 監 督 松橋秀幸
【製】 作 広瀬公乃
【製】 作 助 手 白木匡子

【出演】
青木力弥
藤井美恵子
秋山亜紀子
林田悠佑
傍島ひとみ
前田みどり



こんなにも知らなかった
ということ
初めて知った

12/1(金)18:30開演 埼玉会館小ホール

被爆から70年。
記憶を伝え残すために語り始めた被爆者と、
それを受けとめ、絵に表現することに挑んだ高校生たちの
2015年夏の物語。
同年12月に初演し客席を
感動の渦に巻き込んだ作品が、待望の全国公演に!

被爆者の集会で、初めて広島市立基町高校創造表現科の生徒
による「原爆の絵」を見た時は、「被爆者の描いた絵?」と思い
ました。それほど迫力に満ちた絵でした。どうしてこのような絵が
描けるのか、というのが取材を始めるきっかけでした。その後
現地へ何度も何度も行ったのは、半年をかけて被爆者から被爆
前後の経験とその後の人生まで丹念に話を聞き、現場へ足を
運び、資料を調べ、繰り返し被爆者と話し合い、時には涙しながら、
悪夢を見ながら、「被爆者の手になって絵を描こう」と真摯に向き
合う高校生たちの姿でした。そうして「絵を描いたこと」を語る
ことで高校生たちがみずから新たな語り部となっていきました。

記憶を語り継ぐ—その輪の中に、皆様とともに加われたいと
願っています。

福山啓子

〔ふくやまけいこ〕
東京都生まれ。早稲田大学第一文学部卒。1980年入団。
文芸演劇部所属。
2006年初演の「博士の愛した数式」で脚本・演出を担当。
児童福祉文化賞(厚生労働大臣賞)を受賞。その後、「野球
部員、舞台に立つ」で脚本・演出、「田舎家の行方」で演出
を担当。2017年5月「梅子とよっちゃん」を書き下す。

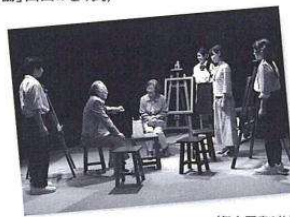


初演の
反響より

「被爆者のいちばん近くにいたら、被爆二世・三世の私たちは
「継承」の方法に戸惑っていました。この作品は大きなヒントと
勇気を与えてくれました。」(機関紙「被団協」山田みどり氏)

「言葉が絵を生みだす一方で、絵が記憶を掘り起
こし、掘り起こされた言葉が絵をさらに精密にして
いく。世代を越えた人々が、過去の真実を明らか
にしようと努力する姿は感動的だ。」(野中広樹氏)

「原爆というものをより身近に感じる事ができたい
機会でした。広島では8月6日登校ということすら知
らず、ただただ普通に、夏休みだ、お盆だと過ごして
いた自分が恥ずかしいです。もっと何かを伝えられ
る、知る努力をすべきだと思いました。」(17才・男性)



(舞台写真2枚)
撮影:V-WAVE

あの夏の絵

福山啓子 作・演出

(出演)



青木力弥 藤井美恵子 秋山亜紀子 林田悠佑 傍島ひとみ 前田みどり

秋田南栄・土方与志 記念
青年劇場
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-9-20 間川ビル4F
TEL 03(3352)6990 FAX 03(3352)9418
info@seinengekijo.co.jp
http://www.seinengekijo.co.jp/

2017年 12月1日(金) 18:30 開演 18:00 開場
埼玉会館 小ホール JR 浦和駅・西口より徒歩6分
さいたま市浦和区高砂 3-1-4 電話:048-829-2471 (代)

チケット 一般 2,500円 ※車椅子をご利用の
(全席自由) 学生 1,500円 方は事前にご連絡
当日500円増し ください。

主催:「あの夏の絵」埼玉公演実行委員会
後援:埼玉県原爆被害者協議会(しんさぎ会)
埼玉県生活協同組合連合会

お問い合わせは
埼高教(048-822-7421)
まで



埼玉実行委員会の頑張りで、生の舞台がこの料金!
ぜひ生徒の皆さんにも観てもらいたい作品です。

完売必至。ぜひチケットはお早めに! お問い合わせは埼高教まで

「あの夏の絵」感想

2015年12月11日~20日 青年劇場スタジオ結



高校生と先生の場面です。明るくお互い
に突っこんでいるような軽いテンポの会話の
中でも、自分と向き合ったり、相手に踏み込んで
いこうとする高校生らしいまっすぐな気持が伝わって
きました。おばあちゃんとお爺ちゃんがスリカを
持って歩く場面からお爺ちゃんの証言の場面、
涙がとまりませんでした。(30代・女性)

証言に出てきた道を自分で歩いてみたり、その場所
に実際に行ってみたりしながら、体験はしていない
けれど、被爆体験についての理解を深めながら
絵を描いていく高校生の姿、そして絵ができてい
くプロセスのなかで、証言者たちが何度も何度も
「ありがとう」という場面が、とても印象的だ
でした。また、語らないでいることにも、その人なり
の理由があることや(ごく身近な範囲で)平和
でいたい、知る必要も感じない、という「外側」
で分け持たれている意識なども丁寧に描かれて
いて、考えるきっかけがたくさん散りばめられて
いました。(40代・女性)

すばらしい公演でした! 私は被爆二世で、父の
体験の証言を始めたばかりです。実際の被爆体験
を語れる被爆者と違い、聞いた事、読んだ事で
伝える事の難しさを痛切に感じています。その
思いは絵を描く高校生が感じた苦しみ、もどか
しさと共通するものだと思います。本当にいい
作品に仕上がっていると思います。今後の公演、
ご活躍を楽しみにしております。(50代・女性)

難しい内容を、どのように表現するのかと思っていました。
はじめての劇場で、入った時には正直びっくりしましたが、
そこはプロですね。小さな劇場を小ささを有効に使い、
効果的でした。効果といえば、あのバックの音楽が、
とても良かった。どこかもの悲しく、それでいてリズム
カルで、力強く、場の転換として、前の場面を次に繋げて
いました。感動しました!! 被爆体験を聞き取って、
絵を描くという、大変な作業はやることながら、3人の
高校生に代表される、今の子どもたちの抱えている問題
を織り込み、関係をつくっていく過程を丁寧に扱っていま
した。女学生生徒の心の痛み、そこから変わっていくための
美術部、仲間との関わり、先生の控えめな、生徒を主役
に信頼している姿、こんな関係を多くの子どもたちが
持てたらいい。と思いました。(女性)

私には12歳になる息子がいます。彼にどのように
原爆のことを伝えようか、時々考えています。伝え
聞く平和教育の功罪を思うと、今、どのように伝える
べきか悩みます。「あの夏の絵」を観て思ったのは、
子どもにこそこの劇を観せたい、ということでした。
もちろん小学生だけでなく、中学生、高校生にも、
広く観てもらいたい。観劇という体験を通じて、継承
に向けた「経験の重ね合わせ」が多くの人に広がって
いくことを願っています。(男性)



(撮影:V-WAVE)

秋田南栄・土方与志 記念
青年劇場 〒160-0022 東京都新宿区新宿2-9-20 間川ビル4F
TEL 03(3352)6990 FAX 03(3352)9418
info@seinengekijo.co.jp http://www.seinengekijo.co.jp/